

## プレス公表（運転保守状況）

2016年4月14日

No.	お知らせ日	号 機	件 名	内 容
	2016年 3月8日	5号機	定期検査中における制御棒の動作 (過挿入)について(区分)	<p>(発生状況)                      2016年3月8日午後2時8分頃、定期検査中の5号機において、制御棒駆動水圧系水圧制御ユニットの弁を操作していたところ、制御棒を操作していないにもかかわらず、制御棒ドリフト警報が発生しました。制御棒の状態を確認した結果、制御棒（30-55）1本が全挿入位置から更に挿入側に一時的に動作（過挿入）していたものと判断しました。</p> <p>本件は実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第134条に基づく報告事象に該当するものと判断し、当該規則に基づき報告しております。</p> <p>なお、5号機は、原子炉内に燃料が装荷されており、制御棒が全挿入状態にありました。制御棒は一時的に挿入方向に動作し、その後、通常的全挿入位置を維持していることから、原子炉の安全上の問題はありません。</p> <p>(安全性、外部への影響)                      本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p style="text-align: right;">(2016年3月8日お知らせ済み)</p> <p>(対応状況)                      調査の結果、スクラム弁ボンネットフランジの片締めが原因であったことから、現在実施中の面間管理対策を継続して行っていく。</p> <p>また、万一、スクラム弁のシート漏えいが発生した場合においても、操作していない制御棒の挿入動作を確実に防止するため、駆動水挿入配管の残留エアをアキュムレータ加圧前に抜く手順の見直しを行った。</p> <p style="text-align: right;">(2016年4月8日お知らせ済み)</p>